

# ☆☆図書室だより☆☆ ☆第41号☆

## ☆☆- 図書委員会よりお知らせ -☆☆



待降節に入り、主のご降誕を待ち望む時期、おすすめしたい本と、併せて新しく入った本の紹介をさせていただきます。

### ご紹介



古屋治雄 主任牧師

### 『最も偉大な祈り 主の祈りを再発見する』

〔茶 198.36 Cr〕

J.D.クロッサン 著 小磯英津子 訳 河野克也 解説 日本キリスト教団出版局

教会では先月から祈禱会で‘主の祈り’を学び始めています。‘主の祈り’については本格的な著書から比較的簡単な冊子に至るまで、教会図書室にたくさんの関連図書がすでに納められています。しかし、‘主の祈り’について私たちはもうすべてその意味を掘り尽くしてしまったのでしょうか。その恵みを汲み上げ尽くしてしまったのでしょうか。もしもそのように捉えているならば、この祈りを教えてくださったイエス・キリストに対して不遜の罪を犯していることとなります。

表題で紹介しているクロッサンのこの著作は、‘主の祈り’に関して間口を広くとって、独特な導入によって展開されています。‘主の祈り’は「最も奇妙な祈りでもあります」また「私にとって、‘主の祈り’は革命的な宣言であり希望の賛歌です」とも語っています。著者はその特色を「ユダヤ教の心から出てキリスト教の口に上る、世界の良心のための祈り」と理解しています。



### 『さんびかものがたりII この聖き夜に アドヴェントとクリスマスの歌』

川端純四郎 著 日本キリスト教団出版局 〔茶 196.5 Ka〕

クリスマスはイエス様のご降誕を祝う喜びの日です。この本は、クリスマスとアドヴェントに関連する32曲を、讃美歌21からとりあげてエピソードを紹介しています。うれしいクリスマスですが、イエス様は人間のあらゆる悲惨の真ただ中に来られたことを忘れてはなりません。1つだけ紹介しましょう。21-273の作詞者、ヨッヘン・クレッパーの人生は、ヒトラーが権力掌握に向かう頃で、ユダヤ人への差別感情が色濃いころと重なります。彼の妻ハンニはユダヤ人でした。激しさを増す迫害の中で、いかに妻と2人の娘を救うか。クレッパーの苦しみ、悩みは私たちの想像をはるかに超えるものでしょう。その後のことはぜひ、本書を手にとってご覧ください。人間の愚かさ、権力を持つ者の虚構、対立の悲惨さを思うとき、私たちは、キリエ・エレイソン=主よ、憐れみたまえ、と祈るほかないのです。その思いを乗せた詩が、不安定な5拍子の曲とともに歌われます。 (神学生 NOR!)

《購入書》	書名	著者名・出版社・発行年など
	ここが変わった！「聖書協会共同訳」旧約編	飯謙他著 大島力他編 日本キリスト教団出版局 2022.3.28 [黄 193.5 O]
	ユダよ、帰れ	コロナ時代に聖書を読む 奥田知志著 新教出版社 2022.3.15 [茶 198.64 O]
	ヤバい神	不都合な記事による旧約聖書入門 トーマス・レーマー著 白田浩一訳 新教出版社 2022.3.25 [橙 193.1 Ro]
	100年前のパンデミック	日本のキリスト教はスペイン風 富坂キリスト教センター編 新教出版社 2021.6.17 [赤 192.1 To]
	ひとりで死なせはしない	日本人牧師、アメリカでコロナ患者を看取る 関野和寛著 日本キリスト教団出版局 2021.9.24 [黒 490.16 Se]
	VTJ旧約聖書注解	サムエル記上 1～15章 勝村弘也著 日本キリスト教団出版局 2022.3.25 [黄 193.24 Ka 1]
	キリスト教神学命題集	ユスティノスからJ.コーンまで 土井健司他監修 日本キリスト教団出版局 2022.3.24 [赤 191. Do]
《寄贈書》		
	子ども、本、祈り	斎藤惇夫著 教文館 2022.5.30 [黒 019.5 Sa]



## 『図説 クリスマス全史 起源・習慣から世界の祝祭となるまで』

タラ・ムーア 著 大島力 日本語版監修 黒木 章人 訳 原書房 [黒 386. Mo]

クリスマスの時期になると心が躍ります。幼い頃は、サンタさんがプレゼントを持って来る、ご馳走やケーキが食べられる、祖父母の家で楽しい時間が過ごせる、そんな思いでいっぱいでした。だからおそらく今も、赤・緑・白のまばゆい光に覆われて、街中が輝き出すクリスマスを毎年心待ちにしているのです。

しかしイエス様がお生まれになった日は、現代の輝かしい街中とは正反対で、静かな簡素なものでした。この本にはイエス様の誕生を巡り、聖書に書かれているわずかなこと、書かれていないけれど何世紀にもわたりキリスト教徒が語り継ぐうちに作り上げられ、現在語られている詳細になったクリスマスの起源が書かれています。2000年前にベツレヘムで子供が生まれたという事実、世界中の人々がその事実をどのように捉えているのかを知ることができるのです。それでも、間もなくやってくるイエス様誕生の日を待ち望みたいものです。

(地の塩会 M.Y)



## 『子ども、本、祈り』

[黒 019.5 Sa]

## 『わたしはなぜファンタジーに向かうのか』

[黒 910.26 Sa]

斎藤惇夫 著 教文館

クリスマスに‘本’を贈りたいが、何を選べば良いかわからなかったり、近年は‘本’など喜んでくれないのではと思うことがあると思います。しかしこの二冊が、自信を持って‘本’を選べば良いということを教えてくれます。

特に子ども時代の‘本’との出会いがどんなに人生を支えるか、歓びに導くか、著者自身の過去と、また後の子どもたちとの触れ合いによって、しかもおとなに向けて語っているにもかかわらず、難しい理論でなく、物語、絵本、詩などの世界に、神様への感謝の祈りとともに導いてくれます。

著者は、日本キリスト教団出版局の伝道誌「こころの友」にも推薦本紹介の連載をしています。

(シオン会 図書委員 Ri)